



WPS Cloud Pro

クラウド型オフィス **選び方ガイドブック**

【表付き】 おすすめサービス 3選を比較



ワウテック株式会社

confidential

目次

クラウド型オフィスの基本情報	3~6ページ
クラウド型オフィスの選び方【5つのポイント】	7~12ページ
クラウド型オフィスのサービス比較	13~16ページ
WPS Cloud Proのご紹介	17~21ページ
お問い合わせ	22ページ

クラウド型オフィスの基本情報

ビジネスに欠かせないツールである「オフィスソフト」。報告書の作成や売上データの管理、プレゼン資料の作成など様々なシーンで出番があります。クラウド型オフィスは、そのオフィスソフトをクラウド上で利用する新しいITツールです。本資料では、クラウド型オフィスの選び方を総合的に解説し、おすすめのサービスも3種類にまとめて紹介・比較します。まず始めに、このセクションではクラウド型オフィスの概要や基本情報をおさらいしていきます。

クラウド型オフィスって何？

クラウド型オフィスとは、その名の通り「クラウド上で利用するオフィスソフト」を意味します。クラウドとは、ベンダーが提供するITシステムなどをインターネットを介して使用するサービス利用形態の一種です。一方のオフィスソフトとは、文書作成ソフトや表計算ソフトといったビジネスに欠かせない業務用アプリケーションを集めてパッケージ化したITツールを指しています。つまり、クラウド型オフィスとは、インターネットを経由して文書作成や表計算といった業務用アプリを利用できるITツールといえます。

買い切り型オフィスソフトとの違い

従来のビジネスは、買い切り型のオフィスソフトを使うことが主流でした。主な買い切り型オフィスソフトとしては、マイクロソフトの「Office シリーズ」や、キングソフトの「WPS Office」などが挙げられます。クラウド型オフィスとこれらの違いは、まさに「クラウドを使うか否か」という点にあります。買い切り版はソフトをインストールしたPCで操作やデータの保存を行います。クラウド型オフィスは各種アプリの操作やファイル保存をインターネット上で行います。「クラウド使用の有無がどのような違いをもたらすのか？」については、後述の「クラウド型オフィスのメリット」で詳しく解説します。

クラウド型オフィス



インターネットを経由して、クラウド上で
ファイルの保存や共有、アプリの操作が行える

クラウド型オフィスの市況

近年はクラウド市場全体が活況であり、それに伴ってクラウド型オフィスのニーズも徐々に高まりを見せています。2021年～2026年におけるクラウド市場の年間成長率は18.8%(*1)と言われており、その市場規模は2026年の時点で3兆7586億円に達すると予測されています。市場の成長に合わせて“クラウドファースト”を掲げる企業も増加傾向にあり、多額の費用と時間をかけて自社サーバーにシステムを構築するオンプレミスではなく、必要なシステムだけを選び取って利用でき、かつインターネットさえあればいつでもすぐに使えるクラウドを選択する企業が増えています。

オフィスソフトにもクラウド化の波

キーマンズネット編集部が2022年3～4月にかけて実施したアンケート調査(*2)によると、2021年4月比でクラウド型の「Microsoft 365（旧Office 365）」が2.6ポイント増加しているのに対し、パッケージ型の「Microsoft Office」は0.6ポイント減少していたそうです。わずかながらではあるものの、オフィスソフトにもクラウド化の波が押し寄せていることが伺えます。

クラウド市場の年間成長率

18.8% 

2021～2026年

*1：国内パブリッククラウドサービス市場予測、2022年～2026年 | IDC Japan

Microsoft の利用状況



2022年3月～4月調査・2021年4月比

*2：Microsoft 365とGoogle Workspaceの利用状況 | キーマンズネット

クラウド型オフィスのメリット ～買い切り版との比較～

買い切り版

利用できる端末に制限がある

メール添付やサーバー格納が面倒

バージョンは購入当時のまま

3～5年でサポートが期限切れ

初期費用が大きい・減価償却の手間

クラウド型オフィスのメリット

1 マルチデバイス対応

インターネットに接続できる端末であればタブレット・スマートフォンなどデバイスの種別を問わず利用が可能です。タブレットなどを用いて社外の環境からファイルの編集や閲覧などを行うこともできます。

2 ファイル共有が簡便

インターネット上のクラウドストレージにファイルを保存するので、発行URLを相手に送るだけでファイル共有が完了します。

3 常に最新バージョン

契約期間中は常に最新バージョンを利用することができます。セキュリティ強化や他オフィスソフトとの互換性向上といった様々なアップデートの恩恵が受けられます。

4 サポート期限なし

契約期間中は常時サポートを受けられます。

5 コストバランス

利用形態が月額支払い形式のサブスクリプションなので、初期費用が抑えられます。また、ランニングコストとなるため、中長期でコストの見通しが立てやすく、さらに減価償却として計上する必要がないので経理手続きも簡便です。

クラウド型オフィスの選び方 【5つのポイント】

1. ブラウザベースか、デスクトップアプリか
2. 十分な機能を搭載しているか
3. Microsoft製品との互換性に問題はないか
4. 「管理機能」は充実しているか
5. 価格は見合っているか

1. ブラウザベースか、デスクトップアプリか

利用する環境がブラウザベースかデスクトップアプリかを確認しましょう。ブラウザベースは文字通りブラウザを使用してオフィスアプリを使います。端末ではなくブラウザをベースに動作し、データもクラウドに保存するので、「端末のOS環境に利用可否を左右されない」「端末破損などによるデータ保存トラブルに強い」といった特徴があります。ただし、端末がブラウザに接続している必要があるため、インターネット環境が必須です。

一方後者のデスクトップアプリは、利用端末にアプリをインストールしてオフィスアプリを使用します。インターネット環境に依存することなくオフィスアプリが使える点がメリットです。デメリットは、端末のOS環境に利用を左右されてしまう点です。「OSのバージョンが古い」「インストールするソフトが端末のOSに対応していない（Windowsでしか使えないなど）」などソフトの種類によっては端末のOSに適合せず、利用が難しい場合があります。デスクトップアプリでオフィスソフトを利用したい場合は必ず対応しているOSとバージョンを確認しましょう。

ブラウザベース

- 端末のOS環境に左右されない
- データ保存トラブルに強い
- インターネットが必須

OR

デスクトップアプリ

- ネット環境に依存せず使える
- OSの環境によっては使えない

2. 十分な機能を搭載しているか

機能面の確認も必要です。「オフィスソフトが搭載しているアプリケーションの種類やそれぞれの機能性」をチェックしておきましょう。サービスごとに搭載しているアプリの種類は異なります。例えば「メール機能があるけどPDF編集はない」「PDF編集はあるけどノート作成機能がない」といった具合です。

各アプリの機能性も同様です。名称が似ていてカテゴリが同じであっても、その機能は完全に同一ではありません。Microsoft 365のExcelで実現できることが、他の表計算ソフトでも同様に実現できるとは限らないのです。使用できる色やフォントの種類が違ったり、使える関数や動作するマクロの種類が異なったりなど、アプリの機能性はサービスごとに差異が存在します。

オフィスソフトを選ぶ際は、「実現したいこと」に合わせて機能を検討することが重要です。

業務に必要なアプリや
機能を搭載している？



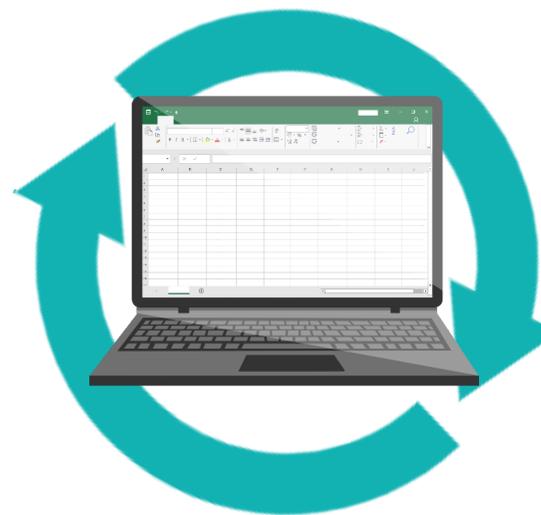
3. Microsoft製品との互換性に問題はないか

Microsoft製品との互換性も事前に確認しておきたいポイントです。オフィスソフトはマイクロソフト社に限らず国内外のさまざまな企業が製品を販売していますが、やはり市場シェアの多くを占めているのはMicrosoft製品です。したがって取引先企業やクライアントとファイルのやり取りを行うとき、相手がそのファイル作成にMicrosoft製品を利用している可能性は高いでしょう。データのやり取りを円滑に行うためにも、オフィスソフトを比較検討する際はMicrosoft製品を基準として考え互換性に問題がないかどうかを確認しておく必要があります。

互換性の高低はサービスによって異なるので、注意が必要です。互換性に乏しい製品の場合、「レイアウトずれ」や「文字化け」、「関数が動作しない」などのトラブルが生じる恐れがあります。

そのオフィスソフト製品の互換性が業務利用の基準を満たせるものかどうか、事前にユースケースを想定し検証しておくのがおすすめです。

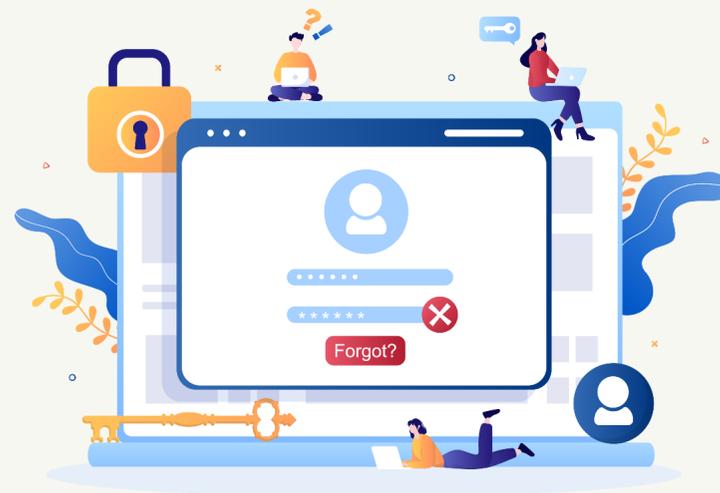
業務利用に支障をきたさないレベルの互換性はあるか？



4. 「管理機能」は充実しているか

4つ目のポイントは、「管理機能」が充実しているかどうか。管理機能とは、管理者が使用する「オフィスソフト全体の設定に関する機能」を意味します。たとえば「ライセンス管理」もその一部に含まれます。インストール型のオフィスソフトの場合、紐づけている端末を一台ごとに把握し管理する必要がありますが、クラウド型オフィスの多くはシステム上で一元管理が行えるので、ライセンス管理を手間なく行えます。ただし、その管理レベルはサービスごとに異なり、どこまで可用性があるのかは事前に確認が必要です。

また、セキュリティに関連する設定も管理機能から行います。たとえば、「利用デバイス制限」や「操作ログの抽出」、「ユーザーごとの権限設定」などが可能です。ただし、こちらもどこまでできるのかはサービスによって異なるので、自社のセキュリティポリシーに準拠したシステム環境を構築できるのかは、提供元に確認しておく必要があります。



5. 価格は見合っているか

最後のポイントは、価格が見合っているかどうかです。クラウド型オフィスの多くは月額で利用料金を支払うサブスクリプションの形式を採用しており、1アカウントごとに料金が発生します。

価格はプランの内容によって大きく変動し、傾向として「多機能なほど高価格」になります。オフィスソフトを使用する業務の内容と照らし合わせながら、自社にとって必要な機能やアプリを網羅し、かつコストバランスが最も適しているサービスおよびプランを採択しましょう。

例えば、限られた業務でしか利用しない場合、多機能すぎるオフィスソフトはコストの無駄になるだけでなく、使用しないアプリが存在することで現場に混乱を招く恐れがあります。「多ければよい」と考えるのではなく、しっかりと業務の棚卸しを行い、「必要十分な内容かどうか」を基準として選ぶことがおすすめです。



クラウド型オフィスのサービス比較

クラウド型オフィスのおすすめサービスを3つピックアップし、それぞれを比較してみます。先ほど紹介した選び方の5つのポイントを踏まえた上で、「どのサービスが自社に適しているか」を検討されてみてください。

<ご留意事項>

※法人向けプランを比較対象としています

※比較情報は2022年7月20日時点のものです。最新情報は各社公式サイトをご確認ください

今回比較する3つのおすすめサービス

Microsoft 365

マイクロソフト社が提供するクラウド型オフィス。オフィスソフトの pionia 的サービス「Microsoft Office」シリーズのサブスクリプションラインで、2011年に「Office 365」の名称でリリースされた（2020年4月に現在の『Microsoft 365』にサービス名を変更）。

Google Workspace

Googleが提供するクラウド型オフィス。元々は2004年に提供が開始されたC向けメールサービス「Gmail」がサービスの起源。現在のよう なビジネス用アプリケーションの総合パッケージ製品となったのは2010年のこと。Microsoft Officeと搭載アプリが似ている。大きな違いは利用設計がブラウザベースである点。

WPS Cloud Pro

キングソフト株式会社が提供するクラウド型オフィス。文書作成や表計算といった基本的な業務用アプリの他、PDF編集機能も標準搭載。加えて、「組織管理コンソール」という法人専用の管理機能が付帯している点も特徴のひとつ。アクセス制限やドキュメント管理、操作ログの抽出といった操作が行える。

※2022年7月20日自社調べ

次のページで、プランごとの「アプリの種類」や「ストレージの概要」を比較表にまとめています。

次ページ：比較表

製品		Microsoft 365				Google Workspace				WPS Cloud Pro	
プラン		Microsoft 365 Business Basic	Microsoft 365 Apps for business	Microsoft 365 Business Standard	Microsoft 365 Business Premium	Business Starter	Business Standard	Business Plus	Enterprise	ライトプラン	2製品プラン2 Wonder Cloud Works
税別価格 (月額 / ID)		¥650	¥900	¥1,360	¥2,390	¥680	¥1,360	¥2,040	問い合わせ	¥300	¥500
利用環境 *1	Web	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	デスクトップアプリ	—	○	○	○	— *2	— *2	— *2	— *2	○	○
	モバイルアプリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務用 アプリ	文書作成	○ (Word)	○ (Word)	○ (Word)	○ (Word)	○ (Docs)	○ (Docs)	○ (Docs)	○ (Docs)	○ (Writer)	○ (Writer)
	表計算	○ (Excel)	○ (Excel)	○ (Excel)	○ (Excel)	○ (Sheets)	○ (Sheets)	○ (Sheets)	○ (Sheets)	○ (Spreadsheets)	○ (Spreadsheets)
	スライド作成	○ (PowerPoint)	○ (PowerPoint)	○ (PowerPoint)	○ (PowerPoint)	○ (Slides)	○ (Slides)	○ (Slides)	○ (Slides)	○ (Presentation)	○ (Presentation)
	共同編集	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	PDF編集	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
	ノート作成	○ (OneNote)	○ (OneNote)	○ (OneNote)	○ (OneNote)	○ (Keep)	○ (Keep)	○ (Keep)	○ (Keep)	—	—
	フォーム作成	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	○ (Forms)	—	—
ストレージ	ストレージ	○ (OneDrive)	○ (OneDrive)	○ (OneDrive)	○ (OneDrive)	○ (Drive)	○ (Drive)	○ (Drive)	○ (Drive)	○	○
	ストレージ容量 ※1ユーザーあたり	1TB	1TB	1TB	1TB	30GB	2TB	5TB	必要に応じて 拡張可能	100GB	100GB
コミュニ ケーション ツール	Web会議	○ (Teams)	—	○ (Teams)	○ (Teams)	○ (Meet)	○ (Meet)	○ (Meet)	○ (Meet)	—	○ (WowTalk)
	チャット	○ (Teams)	—	○ (Teams)	○ (Teams)	○ (Chat)	○ (Chat)	○ (Chat)	○ (Chat)	—	○ (WowTalk)
	メール	○ (Outlook/Exchange)	○ (Outlook)	○ (Outlook/Exchange)	○ (Outlook/Exchange)	○ (Gmail)	○ (Gmail)	○ (Gmail)	○ (Gmail)	—	—
管理機能	デバイス管理	—	—	—	○ (Intune)	○ (エンドポイント管理(基本))	○ (エンドポイント管理(基本))	○ (エンドポイント管理(詳細))	○ (大規模ビジネス)	○ (組織管理コンソール)	○ (組織管理コンソール)
	情報保護	—	—	—	○ (Azure Information Protection)	—	—	○ (Valut)	○ (Valut)	—	—
	データベース管理	—	○ (Access)	○ (Access)	○ (Access)	—	—	—	—	—	—

*2022年7月20日自社調べ *1 業務用アプリの利用環境が対象 *2 一部アプリはデスクトップアプリを提供

6つの比較ポイント

1 利用環境

Microsoft 365とWPS Cloud Proはデスクトップアプリの利用が可能。オフライン環境でも各種アプリを操作できる。Google Workspaceは、業務用アプリの利用環境が基本的にWebブラウザベースで、デスクトップアプリの用意がない。**オフライン環境における作業の快適さを重視するかどうかがポイント**となる。

2 業務用アプリの種類

それぞれ基本オフィスアプリは網羅。**大きな違いの一つはPDF編集機能の有無**。3サービスの内、PDF編集機能があるのはWPS Cloud Proのみのため、業務でPDF編集を行いたい場合は、WPS Cloud Proが適している。しかし「ノート・フォーム作成」アプリは未搭載のため、この点は考慮する必要あり。

3 ストレージの容量

Microsoft 365とGoogle WorkspaceはStandardプランの場合**1TB**を超える容量があり、大容量のストレージを必要とするユーザーに最適。WPS Cloud Proは**100GB**なので、取り扱うデータ総容量が小さい、もしくは別途保存用サーバーを利用している場合に◎。

4 コミュニケーションツール

Microsoft 365とGoogle Workspaceは、メール・チャット・Web会議をすべて利用可能*1。WPS Cloud Proは提携サービス「WCW *2」の2製品プラン2を契約することで、ビジネスチャット「WowTalk」が利用できる（最大5名でビデオ通話可能）。**一元化するか、別途ツールを利用もしくは拡張するかがポイント**。

5 管理機能

管理系の機能の充実度はプランごとに差があるので、予算と相談しつつ検討するのが◎。セキュリティや運用負担の削減を重視するなら「デバイス管理」の機能は使えるようにしておきたい。「情報保護」は機密文書に関する機能であるため、取り扱う情報の機密性が高い場合は重要度が高くなる。

6 コストパフォーマンス

最も低コストなのは**WPS Cloud Proのライトプラン(300円)**。Microsoft 365・Google WorkspaceはStandardプランがともに1,360円。料金と機能の数は比例する傾向にあるので、必要なアプリから逆算して最も費用対効果の優れるサービスを探すのが◎。

※2022年7月20日自社調べ ※料金はいずれも税別価格 *1 Microsoft 365 Apps for businessプランのみTeamsが利用不可 *2 WCW=Wonder Cloud Works
ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

WPS Cloud Proのご紹介

優れたコストパフォーマンスと機能性を誇るクラウド型オフィス
ファイル管理を簡便化し、情報連携を強化する「共同編集機能」
作成・編集から、変換まで。自由度の高い「PDF編集機能」
コミュニケーションツールの拡張搭載も可能

優れたコストパフォーマンスと機能性を誇るクラウド型オフィス

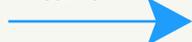


WPS Cloud Proは、法人向けクラウド型オフィスです。クラウドストレージとオフィスアプリケーションが一体となったソリューションで、文書作成や表計算、PDF編集などビジネスに欠かせないオフィスアプリはもちろん、大容量のクラウドストレージ機能も付帯。加えて、組織の資産管理をサポートする「組織管理コンソール」も基本機能として備えています。**これだけ使えて、11D300円(税別)。初期費用なし。**コストと機能の両立を実現した新しいクラウド型オフィスです。

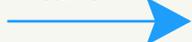
ファイル管理を簡便化し、情報連携を強化する「共同編集機能」



編集



編集



名前	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	売上合計	売上貢献度
A氏	890	1,350	1,400	550	¥4,190	13%
B氏	1,290	800	1,720	920	¥4,730	15%
C氏	1,000	1,590	1,800	1,960	¥6,350	20%
D氏	700	1,960	1,340	1,850	¥5,850	18%
E氏	1,250	1,380	1,160	1,660	¥5,450	17%
F氏	1,400	1,000	1,570	1,200	¥5,170	16%

個人売上高（四半期毎）

第4四半期

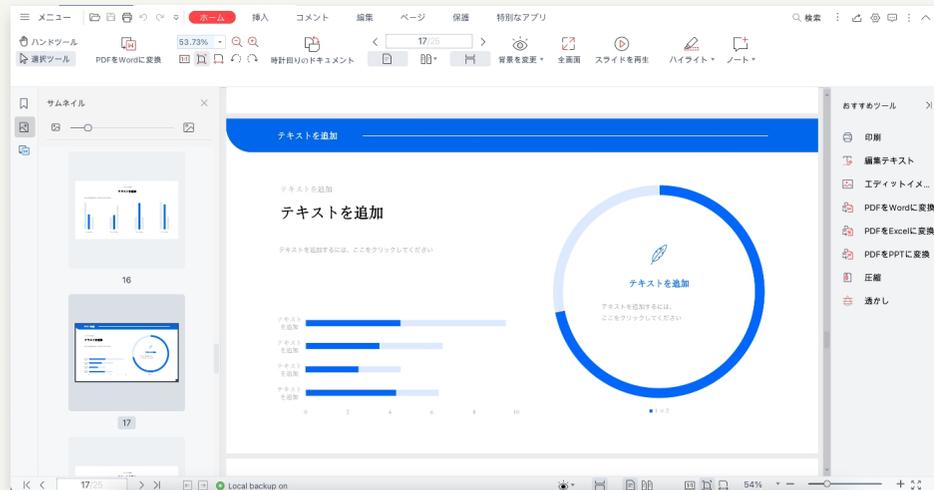
1つのファイルを複数のユーザーが同時に編集できる！



- ファイル管理の業務負担を削減
- リアルタイムな情報共有を実現

WPS Cloud Proには「共同編集機能」が付いています。この機能は、**クラウドに格納した1つのファイルを複数のユーザーがリアルタイムに編集できる機能**です。例えば、店舗全体の売上データを管理するスプレッドシートファイルがあるとして、売上データの更新作業を各店舗の担当者が同時に行えます。店舗や部門ごとにファイルを分ける必要がなく、**1つのファイルでデータを一元管理**できるので、ファイル管理にかかる業務負担を大幅に削減することができます。また、ファイル上で情報をリアルタイムに共有できるため、組織内の情報連携強化にも有効です。スピーディかつシームレスな情報共有を実現します。

作成・編集から、変換まで。自由度の高い「PDF編集機能」



*実際のPDF編集画面 **元ファイルはWPS Cloud Proで制作したテンプレートのPPTファイル

PDF編集機能の一覧



ドキュメントをPDFに変換



PDFファイルの閲覧



PDFファイルの作成



PDFファイルの編集



PDFファイルの圧縮



PDFファイルの結合



PDFファイルの分割



PDFファイルを画像に変換



PDFからDOCX変換



PDFからXLSX変換



PDFからPPTX変換



画像からPDF変換

WPS Cloud Proのデスクトップアプリには、**PDF編集機能**が搭載されています。閲覧はもちろん、PDFファイルの作成、編集、結合、ページの分割、PDFからドキュメントに変換、ドキュメントからPDFに変換など高度な編集が簡単にできます。新たにPDF編集ソフトを用意する必要がなく、これまでPDFファイルに直接編集ができずにテキストをドキュメントにコピーして編集する、といった面倒な作業をなくし、デスクトップアプリでオフィスドキュメントの作成も編集もすべて完結します。

コミュニケーションツールの拡張搭載も可能

ドキュメント作成・管理



WPS Cloud Pro

クラウド型オフィス

×

社内コミュニケーション



WowTalk

ビジネスチャット

=

Wonder Cloud Works



2製品プラン2 (500円/月)

※税別

WPS Cloud Proは、提携サービスである「Wonder Cloud Works」の2製品プラン2をご契約いただくことで、**コミュニケーションツールの拡張搭載が可能**です。導入実績1万社以上の実績を誇るビジネスチャット「WowTalk（ワウトーク）」のスタンダードプランと一緒にご利用いただくことができます。「ドキュメントの作成や管理だけでなく、社内コミュニケーションにも課題を感じており、ソリューションで包括的に解決したい」という方にぜひおすすめしたいプランです。

お問い合わせ

WPS Cloud Proにご興味をお持ちいただけただけの方は、下記の電話番号もしくはお問い合わせフォームから、お気軽にお問い合わせください。費用のお見積りや導入のご相談など、様々なお問い合せを承っております。専任の担当者が貴社に最適な活用方法を提案させていただきます。また、詳細な機能概要や料金プランについてまとめた製品資料も、この機会にぜひダウンロードください（無料）。



ワウテック株式会社
03-5797-7393



WPS Cloud Pro公式サイト
<https://biz.wpscloud.jp/>

お問い合わせフォーム・・・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/contact>

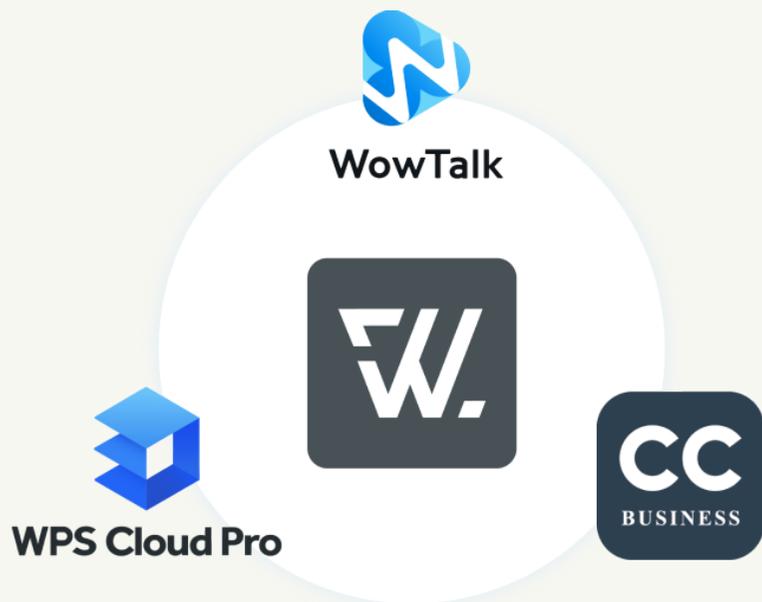
無料トライアルお申し込み・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/trial>

製品資料DLフォーム・・・・・・・・・・ <https://biz.wpscloud.jp/document>

*無料トライアルプランは予告なく提供を終了する場合がございます。最新情報はサービスサイトをご確認いただくか、お問い合わせフォームよりお問い合わせください。

必要なクラウドを、必要な分だけ選べる、クラウドソリューション

Wonder Cloud Works



ワウテックは新たなサービスとして、「Wonder Cloud Works(ワンダークラウドワークス)」の提供をスタートしました。WowTalkと、クラウド電話帳「CAMCARD BUSINESS」、クラウド型オフィス「WPS Cloud Pro」を統合した製品です。Wonder Cloud Worksを活用すれば、クラウド型オフィスにプラスして、名刺情報管理やチャット機能などをシームレスに利用でき、業務のさらなる効率化を図ることができます。

＼製品資料のダウンロードや、お問い合わせはこちらから／

<https://www.wondercloudworks.jp/>

Wonder Cloud Works 公式サイト

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。



WPS Cloud Pro